

会議録(概要)

会議名	平成 30 年度 第 2 回芦屋町子ども・子育て会議					
会 場	芦屋町役場 4 階 41 会議室					
日 時	平成 31 年 3 月 13 日 (水) 15 : 00~16 : 30					
委員の出欠	委員長	小林 和子	出	委員	三木 友妃代	出
	副委員長	伊藤 亜希子	出	委員	岩崎 眞樹	欠
	委員	乙坂 有里	出	委員	向井 米子	出
	委員	本郷 あゆみ	出	委員	今田 和彦	出
	委員	濱野 頼子	出	委員	新開 晴浩	出
	委員	瓜生 幸加	出	委員	石川 智雄	出
	委員	森山 真奈美	出	委員		
傍聴者	0 名					
件名・議題	<p>議事</p> <p>(1) 子ども・子育て支援事業平成 29 年度実績報告と評価・今後の方針について</p> <p>(2) 平成 29 年度、30 年度の子ども・子育て支援事業等の取組状況について</p> <p>(3) 子ども・子育て支援事業計画改訂について</p> <p>(4) アンケート調査票について</p> <p>(5) その他</p>					
合意事項 決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査対象を無作為から全数調査への変更について承認を得た。 ・アンケート調査期間の延長は事務局内で検討することで承認を得た。 ・計画改訂に係る会議開催のスケジュールについて承認を得た。 					

平成 30 年度 第 2 回 芦屋町子ども・子育て会議

○日時 平成 31 年 3 月 13 日（水） 15：00～16：30

○協議

<議題 1 子ども・子育て支援事業平成 29 年度実績報告と評価・今後の方針について>

【質疑応答】

（委員）

・妊婦は何人くらいいるのか。

（事務局）

・平成 29 年度に出産した数は 96 人ということなので、年間 100 人前後生まれていると認識して頂きたい。

（委員）

・全国的にも風疹・麻しんが流行っており、検査など町は行っているのか。

（事務局）

・今年度から麻しんの抗体検査を行い、抗体値の低い方には予防接種をすることになっている。町でも当初予算に計上して、取り組むことを計画している。風疹については福岡県の事業で行うことになっており、児童福祉施設や幼稚園、保育所の職員には予防接種を任意で行ってもらおう。3,000 円の自己負担で 7,000 円を補助していく事業である。風疹・麻しんに対しては、国や県の指導もあるので町でも行っていく計画である。

（委員長）

・子育て短期支援事業について、利用の相談はあるが利用実績はない。差し支えない範囲で理由を教えてもらいたい。また、現時点で平成 30 年度の実績はあるのか。

（事務局）

・ひとり親家庭の方からの相談が多く、上の子どものイベントに行くために下の子どもを連れて行くことが難しいので、乳児院に預かってもらえるかという相談はあるが、親せきに預かってもらえるようになった、イベント自体が無くなったから預かってもらう必要がなくなったということで利用に至らないケースがみられる。相談自体は 4～5 件あるが、結果的に利用はない。平成 30 年度も同じ状況で解決されているので、利用は 0 件である。

(事務局)

- ・先ほどの風疹検査について補足がある。風疹検査で抗体値が低い人は予防接種を行うこととしているが、39歳～56歳の男性が対象である。県の事業では、福祉施設の職員と妊婦とその配偶者で希望する人が行うことになっている。

<議題2 平成29年度、30年度の子ども・子育て支援事業等の取組状況について>

【質疑応答】

(委員)

- ・出産祝金事業について、芦屋町の住民であることは前提だと思うが、区に入っていないとお金がもらえないと聞いたが本当か。

(事務局)

- ・支給の要件として、自治区に加入して頂いている。自治区での加入証明書を添付してもらい、申請してもらう仕組みである。

(委員)

- ・自治区の活動に参加していなくても、自治会に入ればお金をもらえるということか。

(事務局)

- ・区に加入していることで、活動の中身までは確認していない。町の自治区への加入が大きな問題である。自治体を運営していくには、自治区の活性化が避けて通れない。若い人たちに自治区の必要性を理解して頂くいい機会だと思っているので、自治区の加入を条件に付けている。他にも、税金の滞納がないかという条件も付けており、その条件をクリアした方にお祝い金を差し上げる制度となっている。

<議題3 子ども・子育て支援事業計画改訂について>

【質疑応答】

(委員長)

- ・4頁にある「トレンド」という言葉の意味は何か。

(事務局)

- ・過去の経緯からどのような傾向がみられるのかということである。

(委員)

- ・5頁の調査の対象者で、就学前児童とは幼稚園・保育所に通っている児童なのか、または小学校に就学前の児童0歳からが対象になるのか。

(事務局)

- ・就学前の児童0～5歳児の子どもをもつ保護者を対象にしている。

(委員)

- ・0～5歳児の保護者が無作為で550人なのか。関連して、小学生児童は無作為抽出で500人とあるが、全保護者になるのか。

(事務局)

- ・基本的には無作為で考えているが、前回の実績をみると、就学前児童に591人に配布して、回収は306人となっている。小学生児童は409人に配布して、回収は225人の回収となっているので、どちらもほぼ全員に配布することになる。

(委員)

- ・小学生児童と就学前児童のきょうだいがいる場合、各家庭に1通届くのか。無作為に選んだら一世帯に2通届くことになるのか。

(事務局)

- ・児童のほぼ全員が対象になると思うが、就学前児童が2人いたら、一番下のお子さん宛に調査票が届くことになる。調査票は2種類あり、内容は異なるので小学生児童と就学前児童がいる家庭には別々の調査票が2通届くことになる。小学生児童が2人いる場合は、下のお子さんに届くようになる。

(委員)

- ・無作為ではなく、全世帯に届いた方が良いのではないか。

(事務局)

- ・全世帯を対象にする。

<議題4 アンケート調査票について>

【質疑応答】

(委員)

- ・調査期間について、4月15日発送予定で30日の締切となっているが、この時期は幼稚園や学校などに提出する書類がたくさんあり、多子世帯には特に負担が大きい。回答の締切をずらすことは難しいのか。少しでもずらしてもらえると、回収率が上がるのではないか。

(委員)

- ・就学前児童用の調査票9頁のサービス事業の利用について、「預かり保育(幼稚園)」は愛生幼稚園での預かり保育とあるが、認定こども園(中央幼稚園の幼稚園型)での預かり保育は入らないのか。

(事務局)

- ・6頁では「認定こども園の預かり保育」として分けているので、9頁の設問についても「預かり保育（認定こども園）」として分ける。また、調査期間を延ばすのならば、ゴールデンウィーク明けが良いのか。あまり調査期間を長くしても書いていただけない状況もみられる。

(委員)

- ・学童保育についてだが、孫が5年生になるとあまり友だちが来ないから辞めると言っている。なぜ5～6年生になると辞めることがあるのか分析しているか。

(事務局)

- ・学童クラブは6年生まで利用対象者として利用できるが、現実として4年生からは子どもたちは自宅で過ごせるようになり辞めてしまう。子どもとしては、友だちがいないから過ごしにくくなり、連動して皆さん利用しなくなる。夏休みなどの長期休暇は、高学年の子も学童クラブに来る状況はある。

(委員長)

- ・アンケートの調査期間についてはどうか。

(事務局)

- ・調査期間については、延ばせるか検討させて顶きたい。

(委員長)

- ・事務局対応でお願いします。

(委員)

- ・回収率を上げるための提案をする。アンケート調査票の冒頭に回答に要する時間を追加すると良いのではないか。また、アンケートの設問でお金に絡むことが出てくると書く気が失せることもあるので、「一部回答したくない項目は回答しなくて結構です。」という一文を追加してはどうかという提案である。

(委員長)

- ・父親も母親もおらず、祖父母に育てられている家庭もあるので、そういう家庭に配慮した記述も必要ではないか。

(事務局)

- ・検討させて頂く。

(委員)

- ・アンケート調査の周知方法についてだが、幼稚園や保育所、学校を通じて、保護者宛に町からのアンケートに協力をお願いするようなプリントを配布はできないだろうか。

(事務局)

- ・教育委員会の方はどうか。

(委員)

- ・内部で協力・連携ということで、各学校長にお願いすることは可能ではないか。

(事務局)

- ・町の広報紙には協力をお願いする記事を掲載する。

(委員)

- ・教育長と協議して、前向きに配布できるように調整を進めたい。

(委員)

- ・町外の幼稚園や保育所、学校に通っている児童や保育所などに通っていない児童などへの周知も必要ではないか。

(委員)

- ・配布される封筒に「大事なお子様の今後のための調査です。必ず出してください」という文言を入れるのはどうか。

(委員長)

- ・配布と周知について、教育委員長と事務局で相談して頂き、漏れのないような発送となるようお願いします。

(委員)

- ・就学前児童用調査票の問30で「④欲しがるおもちゃやぬいぐるみ等」は答えにくいのではないのか。与えたい気持ちはあっても教育上、我慢させることもあるので、この項目は必要ないのではないか。

(事務局)

- ・項目を削除する。

(委員)

- ・就学前児童用調査票の問18で子どもの病気の際の対応について、月齢が小さいほど、特に熱を出して帰ってくることも多い。一年単位になると休みの日数を把握しておらず、正確に答えることは難しい。

(事務局)

- ・記入しにくい場合は、おおよその数でも可能であることを追記する。

<議題5 その他>

【質疑応答】

(事務局)

- ・今後のスケジュールとしては、6月から5回程度の会議開催を予定している。協力をお願いする。他は特になし。

(委員長)

- ・次回は6～7月と考えていたら良いか。

(事務局)

- ・6月末の予定である。時期が近付いたら案内する。